

年 組 名前:

# アマゴ ペットボトルでふ化



養殖場ではアマゴやイワナ、大のブランド魚「富士の介」などを養殖している。生



## 富士川・養殖場 「観察 気軽に」

富士川町平林の忍沢養殖場を営む秋山富一さん(71)は、ペットボトルに入れたアマゴの卵をふ化させることに成功した。地域の小学校などに卵を寄付して成長の過程を学んでもらう取り組みをしていて、水槽を設置しなくても観察できる方法を研究していた。今後は各家庭などでも活用してもらいたいことを目指す。

〈深沢澤〉

態について知ってもらおうと、5年ほど前から峡南地域を中心に小学校へアマゴの卵を寄付。ふ化してから稚魚が自力で泳ぐまでの様子を観察してもらおう取り組みをしてきたという。

従来はエアレーションを備えた水槽に卵を入れて提供していたが、秋山さんは「設置場所が限られ、教職員も管理が大変では」と思案。負担を軽減しようと、10年ほど前に始めて一度断念した研究を再開し、水温やふ化を試みる卵の個数を変えるなど試行錯誤してきたという。

昨年の取り組みでは、容量2リットルのペットボトルに、養殖場近くを流れる戸川の水1リットルと卵3個を入れた。密閉した上で、紫外線を避けながら自然の環境に近づけるために水温を0〜18度に保つたところ、無事にふ化したという。

配送も容易になるため、今後は学校だけでなく希望する家庭や都市部でも観察が可能になる見込みという。ふ化した稚魚はむやみに放流できないため、取引がある宿泊業者などと協力して回収する方法も検討している。

秋山さんは「密閉されたペットボトルの内部は魚にとっては「宇宙船」のようなもので、生命力の強さを感じる」と感心した様子。「子どもたちがこれまで以上に気軽に稚魚を観察できるように研究を続け、方法を確立したい」と話している。

(2024年1月24日付 山梨日日新聞17面)

問1 富士川町で養殖場を営む秋山さんは、なにを使ってアマゴの卵をふ化させることに成功しましたか。

.....

問2 秋山さんが、小学校へアマゴの卵を寄付している理由を教えてください。

.....

問3 どのような取り組みをすることで、無事にふ化しましたか。

.....